

Ｊ - P O W E Rグループに期待する取り組み

「環境経営」について	
ご意見	Ｊ - P O W E Rグループの取り組み（ご意見に対するご回答）
環境との共生は今後も重要になってくるので、注力し続けてください。	「エネルギーと環境の共生」を目指す企業理念のもと、着実に取り組みを進めてまいります。
本レポートについて、若干の希望を申しますと[環境会計]部分についての説明に不足が否めません。まず、環境会計の概念・意義・用語解説等の基本的説明が不足しているのです。このような基礎部分から説明開示する努力を是非していただきたいと思ひます	環境省の環境会計ガイドラインなどを参考に、更に「環境会計」の充実に取り組んでまいります。説明の仕方なども含め、今後とも改善に向け努力してまいります。
サステナブル経営のために、環境会計経営は大変重要です。情報開示をより一層御推進下さい。	
環境問題に対するＪ - P O W E Rの立場や協調性をアピールするべきである。	
テレビなどでもっとCMを行い会社をアピールする。 そしてCMにより一般の方にＪ - P O W E Rグループを認知してもらうとともに、CMを見たグループ社員も社員としての自覚責任等を今以上に認識して行けるのではないのでしょうか。 まずは社員自身がＪ - P O W E Rグループ社員である事に誇りを持つ事が将来の様々な活動に繋がって行き、役立つのではないのでしょうか。	社会および地域の一員として信頼され、親しまれる存在となるため、「サステナビリティレポート」の発行などを通じ幅広い環境保全への取り組みを公表するとともに、各種広報活動を通じてさまざまな情報を発信してまいります。
多様な事業方針をもっとアピールしていただけると、より多くの市民に電力安定供給の重要性を理解させることができ、様々な意味で良き企業市民として経営の安定化につなげることが出来るのではないのでしょうか。	
国策に沿うとは言え、原発の負の側面についての考え方が見受けられないのはいかがなものか。	原子力発電に関しましては、昨年度に引続き特集として大間原子力建設所の記事を掲載しています。
大間原発建設に関し、もっと積極的に情報を開示し、周囲の理解をもっと得るべきである。	2009年版サステナビリティレポートでは、2008年版よりページを増やし「安全で持続可能な原子力利用」としてＪ - P O W E Rグループの原子力発電所への取り組みをP.9-12に掲載していますのでご覧ください。
低コスト発電やCO <sub>2</sub> の削減には原子力発電が必要と思いますが、事故・災害等には十分配慮してください。	
大間原子力発電所に関して、現在、世界的に加圧水型が主力と思いますが、どうして沸騰水型を選んだのか。	大間原子力発電所計画は、原子力委員会決定に基づくナショナルプロジェクトとしてATR実証炉の建設計画でスタートしました。その後、経済性等の理由から、原子力委員会決定（平成7年）において、ATR実証炉計画の中止及びフルMOX - ABWR（改良型沸騰水型原子炉）を代替計画として当社が実施することが適当であるとされました。 その理由としては、柔軟なMOX燃料利用が可能なこと、当時建設中であった東京電力(株)柏崎刈羽原子力発電所の基本仕様の変更をせず実施可能なこと等が挙げられています。 この決定に基づき、当社が責任を持って計画遂行するものであります。
投資家に対する姿勢がしっかりしていないように受ける。 ひいては経営理念、経営方針にも関わることであると思うので、しっかりとした基軸を打ち出すべき。	2009年版サステナビリティレポートでは、新たに社会編の中に「株主・投資家の皆さまとともに」という記事をP.35に追加しています。
社外意見にもあるが、電力の「安定供給」と「持続可能性」との調和・両立に関し、理念・手法が確立されていないように感じられたことに加え、2つの調和・両立に関する苦悩さえも垣間見られない感じを受けた。 特に後者に関し、いろいろな取組は分かったものの、どの程度環境に配慮しようとしているのか疑問が残った。	株主・投資家の皆さまとコミュニケーションの充実を図ることで、事業活動へのご理解、ご意見をいただき、さらなる信頼関係構築に努めてまいります。 なお、財務情報、事業計画などについては、「アニュアルレポート」もあわせてご覧ください。
電源開発の意味から燃料電池については、発電の一部に使用するという狭い範囲ではなく、電池単体で発電し供給できるようにしてほしい 更に電池を家庭用などに外販できるように開発してほしい。	ガスタービン、蒸気タービンに燃料電池を加えたトリプル複合発電システム（IGFC）は、発電効率の向上が可能となり既存の石炭火力に比べ大幅にCO <sub>2</sub> を削減できることから温暖化対策として非常に有効であり、Ｊ - P O W E Rグループでは世界に先駆けて開発に取り組んでいます。我々は、IGFCシステムの早期実現に向け、高温で作動し、耐久性にも優れるSOFC（固体酸化物形燃料電池）のパイロット試験を実施中です。
発展する国々への環境技術の支援を行ってほしい。	日本国内で培った環境保全技術などを活用し、海外コンサルティング事業における技術の移転・普及を図っています。 取組み事例につきましては、2009年版サステナビリティレポートのP.29-31をご覧ください。

「地球環境問題への取り組み」について	
ご意見	J - POWERグループの取り組み（ご意見に対するご回答）
石炭利用と地球温暖化対策は長期的な取組みが重要な課題です。今後、石炭エネルギーの主役となる時代がやってくると思いますが、技術の促進を願うものです。	<p>石炭火力発電所から排出されるCO<sub>2</sub>のさらなる削減は、J - POWERグループの重要な責務であり、技術開発に鋭意取り組んでいるところです。石炭をガス化することにより発電効率を向上させるIGCCの開発、さらに燃焼排ガスからCO<sub>2</sub>を分離回収してCO<sub>2</sub>のゼロエミッションを目指す取組みに関しましては、2009年版サステナビリティレポートのP. 13 - 17をご覧ください。</p> <p>CO<sub>2</sub>排出の少ない電源として原子力発電所の建設を推進するとともに、水力や風力、バイオマス、地熱などの再生可能エネルギー等の有効活用を図っています。青森県下北半島で建設中の大間原子力発電所の進捗状況は2009年版サステナビリティレポートのP. 9 - 12を、風力やバイオマスなどの取組み状況については同じくP. 47 - 50をご覧ください。</p> <p>J - POWERグループは石炭火力のリーディングカンパニーとして、地球温暖化問題への4つの対策である「エネルギー利用効率の向上」、「CO<sub>2</sub>排出の少ない電源の開発」、「技術の開発・移転・普及」、「京都メカニズムの活用など」を合理的に組合せ、発電効率の更なる向上と低炭素化にイノベーションをもってチャレンジしていく所存です。</p>
IGCC（石炭ガス化複合発電）について詳しく説明して下さい。	
ゼロエミッションのプロセスが知りたい。	
脱炭素を目指しての原子力発電、風力発電、地熱発電、太陽光発電等の今後の投資を期待したい。特に原子力を！	
バイオマス燃料に期待したい。	
電力安定供給、消失電力の抑制（発電量、消費電力差の減少）を望みます。	
エネルギー界の一翼として、地球レベルの発想をベースに発展されますように。	
これからも地球環境にやさしい取り組みをお願いします。	
地球温暖化にリーダーシップをもち対応して欲しい。 自然エネルギーの開発推進役のリーダーであって欲しい。	

「地域環境問題への取り組み」について	
ご意見	J - POWERグループの取り組み（ご意見に対するご回答）
風景も大切な環境です。 美しい景色の中に風車や送電線があるのは困ります。 機子の煙突は景観に配慮された由、嬉しく思います。	J - POWERグループは今後も「エネルギーと環境の共生」をめざして取り組んでまいります。発電所の新設等をする際には環境アセスメントを実施し、景観も含めて適正に環境影響評価を行い、地域の方々のご意見を反映しながら環境保全のための適切な配慮を行っています。

「透明性・信頼性への取り組み」について	
ご意見	J - POWERグループの取り組み（ご意見に対するご回答）
「危機管理、防災」に関しましては、万全の対策を望みます。	J - POWERグループの事業環境に潜在するリスクは複雑かつ多様化しているため、危機管理や防災に対しては想定できる様々なケースに備えて体制を整えています。2009年版サステナビリティレポートのP. 20 - 21で取り組みを紹介していますのでご覧ください。

「社会面への取り組み」について	
ご意見	J - POWERグループの取り組み（ご意見に対するご回答）
社会との共生について、積極的に取り組んで行って欲しい。	<p>J - POWERグループの企業活動は、発電所などの地域の人々によって支えられています。社員一人ひとりがそれぞれの地域において良き住民であり、地域と社会に役立つ存在でありたいと思います。今後も地域の人々から信頼され、社会とともに成長することをめざしていきます。</p> <p>至近の災害事例の大部分は工事・作業にかかわる業者で起きているため、J - POWERグループでは協力会社を含めた一体的な安全活動を展開しています。また、職場内や関係者間でのコミュニケーションの活性化に努めることにより、各種災害の防止を図っています。</p>
従業員との良好な関係、さらなる社会との良好な関係を築いてほしい。	
地域とのつながりの更なる充実を目指して欲しい。	
安全活動の充実を目指して人材の育成と重大災害の防止策など、教育研修を行い活力ある職場づくりが必要です。	
死亡災害2件は残念なことです。 最近安全トラブル増加の傾向、特にヒューマンエラーが目立ちます。分析フォローを望みます。	

「レポート編集」について

ご意見	J-POWERグループの取り組み（ご意見に対するご回答）
内容は大変充実しているが一般投資家や市民にアピールする為には、もう少し文字数を減らし、文字を大きくしたら読み易いと思う。	2009年版サステナビリティレポートでは写真や図表をより多く採用し、文字サイズにメリハリをつけるなど、視覚的な見やすさを意識して制作しています。 また、「経営編」、「社会編」掲載項目の整理・充実を図るとともに、従業員による業務紹介を掲載するなど、わかりやすく、親しみやすいレポートの製作を心がけています。
本報告書に関してましては、不足感を感じます。具体的には数値を数多く示すべきで、それを図表によって視覚的にアピールする必要があると思われます。	
他社に比べて写真が多く、また、読み易いと思います。特に特集の作り方が素晴らしいと思いました。社員の方が出演していて親しみを感じます。	
経営編について、もう少し簡単にまとめることはできないか？	
環境編を多くしてもらいたい。	2009年版サステナビリティレポートの環境編については、昨年版の内容に加え、新たに「再生可能エネルギー」や「生物多様性保全への取り組み」をクローズアップするなど、報告内容の充実を心がけて作成していますのでご覧ください。
子会社について、ただ社名を羅列するだけで無く、5行程度の業務内容等を紹介したものを付けて欲しい。	2009年版サステナビリティレポートでは主な連結子会社の業務内容をP.77に記載していますのでご覧ください。
「サステナブル」など用語をできるだけ日本語でできないものか。	従来の巻末用語集のほか、各ページ下にkey wordとなる用語の解説や参考となるURLを掲載しました。また、その他のコミュニケーションツールも紹介していますのでご覧ください。
内容の充実については十分感じているところですが、今一つ用語に所々難解さを感じます。用語解説を参照して読むのですが、もう少し平易に記していただければと思います。	
専門用語の説明について、新たに出てきた専門用語は、そのページの枠部分にでも簡単な説明を追加したらどうか。もちろん、用語集にも記載する。	